

ご挨拶

# IFRS 財団トラスティー 就任にあたって

IFRS 財団トラスティー おかだ じょうじ  
**岡田 讓治**



## はじめに

このたび、IFRS 財団のトラスティーに就任いたしました岡田です。就任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

先の参院選における自民党の圧勝、いわゆる「ねじれ」の解消を受けて、デフレ脱却、経済再生と更なる成長に向けた政府自民党の更なるリーダーシップの発揮、スピード感のある施策の推進が大いに期待される所ですが、自民党政権の掲げる成長戦略において我が国金融・資本市場の魅力拡大（5年以内に世界一）が標榜されていることは皆様御承知の通りです。我が国の資本市場が真のグローバル市場として国際的な評価・信認を得るためには、単に規模が拡大するだけでなく、金融・資本市場の基盤をなす会計制度の透明性、信頼性を一層高めていく必要があることは申すまでもありません。

## 我が国の現況と抱負

翻って、我が国の会計制度を巡るここ数年の議論を振り返ってみますと、その中心には常にIFRSがあり、市場関係者各位の真摯な対応と御尽力の結果、国内における議論は深化、熟成の域に達しつつあると考えます。

本年6月に企業会計審議会より公表された「国際会計基準（IFRS）への対応のあり方に関する当面の方針」においては、IFRSの策定に我が国としての意見を積極的に発信していくことや、任意適用の拡大を促す具体策が提案され、海外を含む市場関係者から大きな注目が集まっています。「単一で高品質な国際基準を策定する」という目標に向けて、我が国も新たな一歩を踏み出したといえるのではないのでしょうか。

7月に初めて参加したトラスティー・ミーティングでは、こうした我が国の前向きな取り組みを高く評価する声が聞かれる一方で、諸外国からのよりスピード感を持った施策への期待をひしひしと感じました。IFRSへの発言権、影響力を今後も維持、行使しながらグローバルな目標達成に関与していけるかどうか、我が国は現在大きな岐路に立たされていると言っても過言ではありません。

日本市場の行く末を左右しかねない重要な時期にトラスティーの重責を担わせていただくことになり、まさに身の引き締まる思いですが、職責を全うするには国内外のステークホルダーの皆様との忌憚のない意見交換を通じた意思疎通が何よりも重要と考えております。微力ではございますが、全力を尽くす所存でございますので、関係者の皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。